

経済・金融
フラッシュロシアの物価状況(24年7月)
ー前年比伸び率は9%台まで上昇

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:前年比で9%台まで上昇

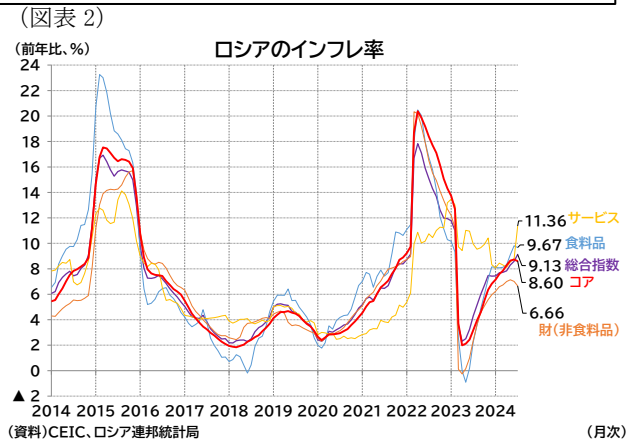
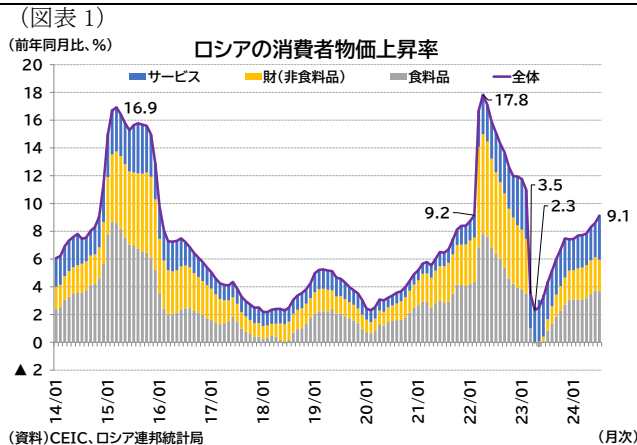
8月9日、ロシア連邦統計局は消費者物価指数を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数(24年7月)】

- ・前年同月比は9.13%、市場予想¹(9.10%)より上振れ、前月(8.59%)から上昇(図表1)
- ・前月比は1.14%、市場予想(1.10%)より上振れ、前月(0.64%)から加速した

【コア指数²(24年7月)】

- ・前年同月比は8.60%、前月(8.73%)から低下した(図表2)
- ・前月比は0.40%、前月(0.58%)から減速した



2. 結果の詳細:足もとではインフレ圧力が緩和

7月のロシアのインフレ率は前年比で9.1%となった。23年4月(2.31%)をボトムにした上昇が続いており、7月は公共料金の引き上げの影響もあって、23年2月(10.99%)以来の高さを記録した。なお、ロシア中銀のインフレ目標(4%)は13か月連続で上回っており、7月にはロシア中銀が、インフレ率が予想を大幅に上回るペースで推移していることを理由に政策金利を2.00%(16→18%)引き上げている。

インフレ率を大分類別に見ると、7月の前年比伸び率は食料品が9.67%(前月:9.81%)、財(非食料品)が6.66%(前月:7.01%)、サービスが11.36%(前月:8.79%)となり、食料品や財はや

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

² 生鮮食品など季節的要因による影響を受ける品目や管理品目を除いた指数。

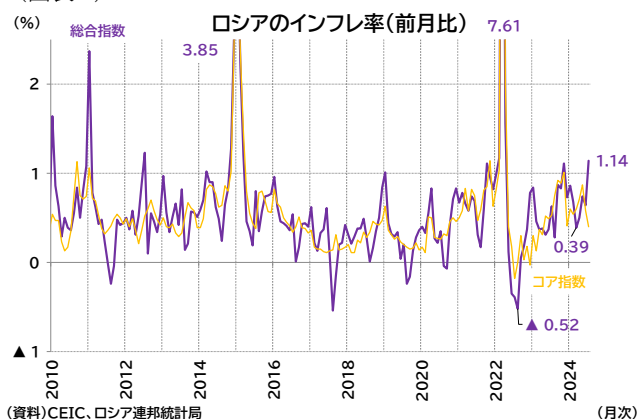
や低下したが、サービスが公共料金引き上げの影響から大幅に上昇した。

前年比寄与度では食料品が 3.7%ポイント程度、財（非食料品）が 2.3%ポイント程度、サービスが 3.2%ポイント程度だった（図表 1）。

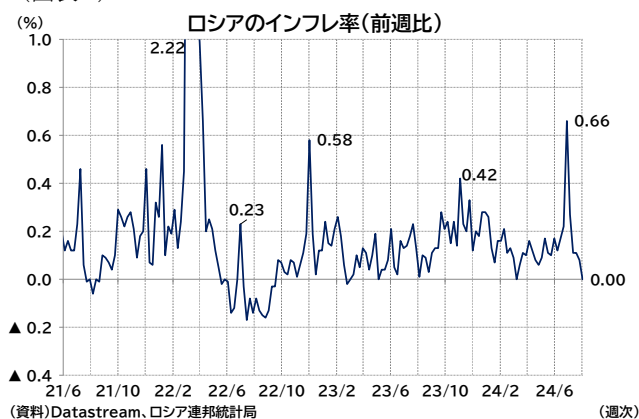
6 月の前月比伸び率は、総合指数で 1.14%、コア指数で 0.4%となった。前月（総合指数 0.64%、コア指数 0.40%）からは減速したものの、総合指数・コア指数ともにコロナ禍前の標準的な上昇率は上回った状態にある（2018 年の前月比伸び率は平均で総合指数が約 0.35%、コア指数が約 0.30%、図表 3）。なお、前月比伸び率を大分類で見ると食料品が 0.36%（前月：0.63%）、財（非食料品）が 0.58%（前月：0.29%）、サービスが 2.86%（前月：1.06%）となった。

別途、ロシア連邦統計局が公表している週次のインフレ率（消費者物価上昇率）を見ると、前週比上昇では最新の 8 月 5 日時点の前週比で 0.00%となり、ややインフレ圧力が和らいでいる（図表 4）。

（図表 3）



（図表 4）



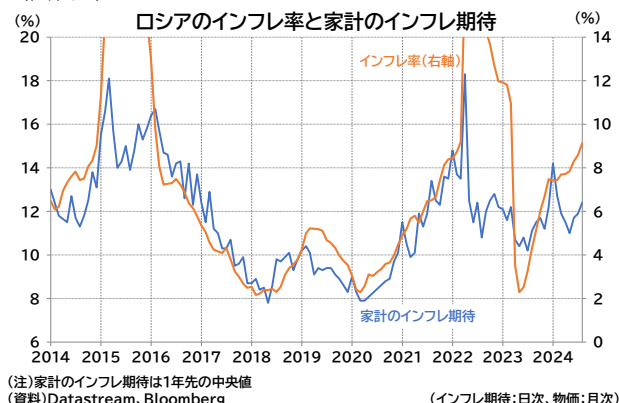
ロシア中央銀行が公表する家計のインフレ期待（1 年先中央値、実際のインフレ率よりも高めになる傾向がある）は、7 月には 12.4%となり 6 月（11.9%）よりさらに上昇したが、過去の傾向（期待インフレ率≒前年比インフレ率+6%、図表 5）と比較すると、期待インフレ率と実際のインフレ率の乖離がやや拡大した（期待インフレ率の数値が実績に対して低めの）状況は継続している。

品目別の上昇率を見ると³（図表 6）、7 月は前年比で卵（37.33%）、その他サービス（32.89%）、接客サービス（17.27%）、青果物（16.80%）の伸び率が高い。また、前月比では、住居・公益サービス（8.22%）、健康増進サービス（3.36%）の上昇率が相対的に大きい。一方、卵（▲3.73%）やその他サービス（▲10.04%）は下落が目立つ。

各品目の消費ウェイトも考慮して、全体のインフレ率への寄与を品目別に見ると（図表 7・

8）、前年比上昇率への寄与が大きい品目は住居・公益サービス（0.97%ポイント）、青果物（0.77%ポイント）、肉（0.59%ポイント）、その他サービス（0.52%ポイント）、家庭サービス（0.51%ポイ

（図表 5）

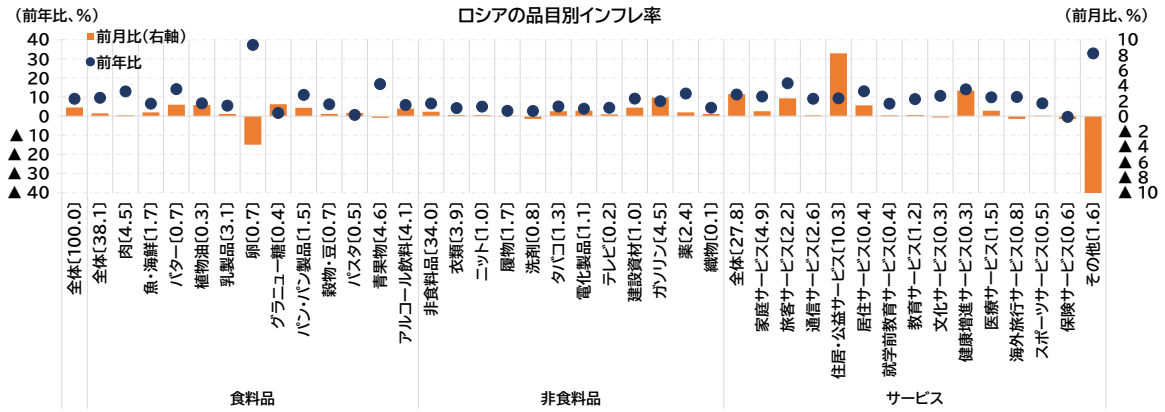


³ 大分類である食料品、財（非食料品）、サービスをそれぞれ細目別に分類したもの（中分類）のうち、[統計局のウェブサイト](#)で公表しているものを記載。

ント)、だった。

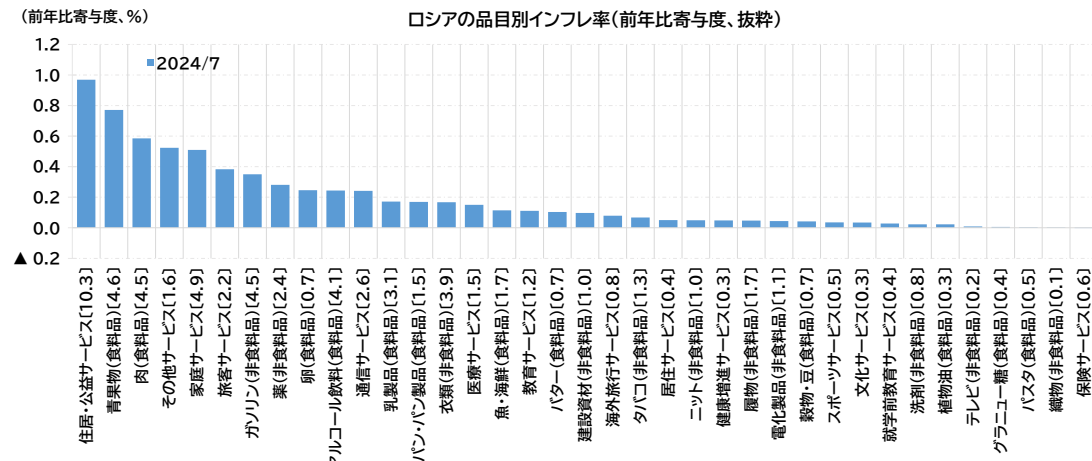
前月比上昇率の寄与では住居・公益サービス（約0.85%ポイント）、ガソリン（約0.11%ポイント）のプラス寄与、その他サービス（約▲0.16%ポイント）のマイナス寄与が大きかった。

(図表 6)



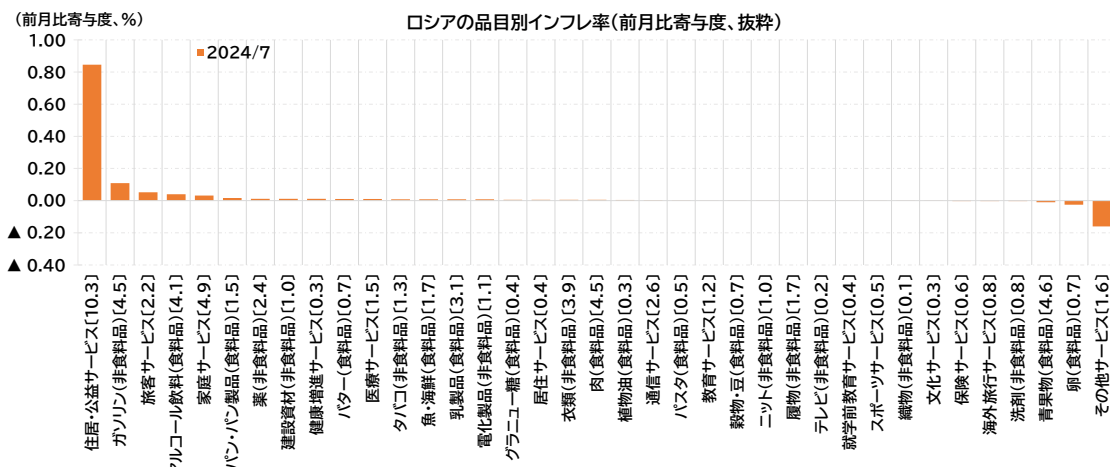
(注)大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
(資料)CEIC、ロシア連邦統計局

(図表 7)



(注)大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
(資料)CEIC、ロシア連邦統計局

(図表 8)



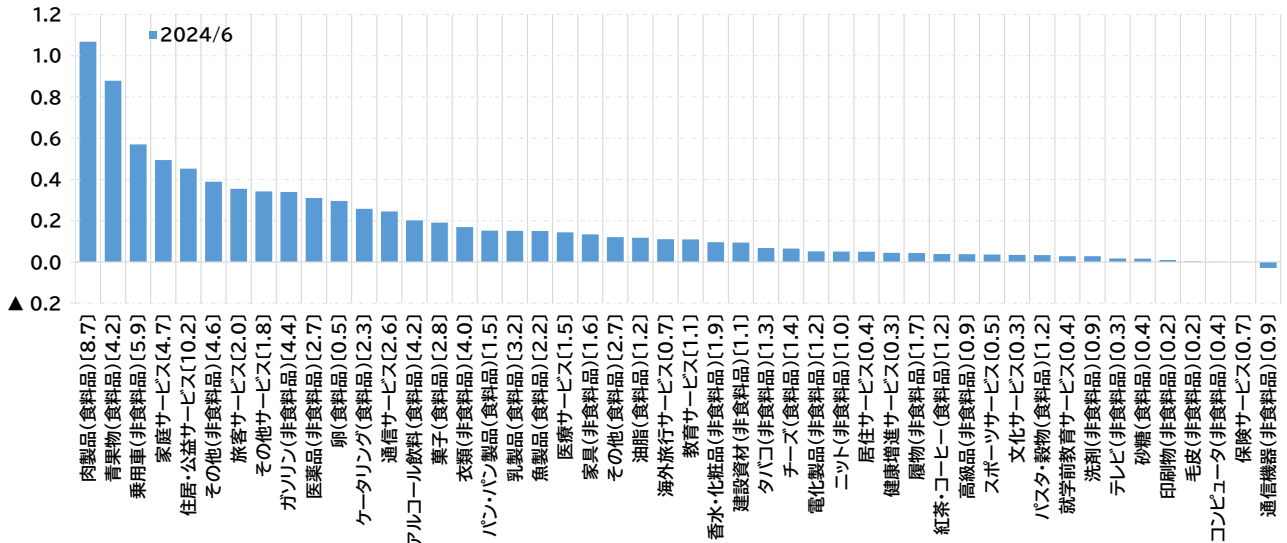
(注)大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
(資料)CEIC、ロシア連邦統計局

なお、現時点において統計局ウェブサイトで公表されていない品目も含む6月の上昇率寄与を見ると、引き続き乗用車が前年比の物価を押し上げていることが分かる（図表9・10）。

（図表 9）

（前年比寄与度、%）

ロシアの品目別インフレ率（前年比寄与度）

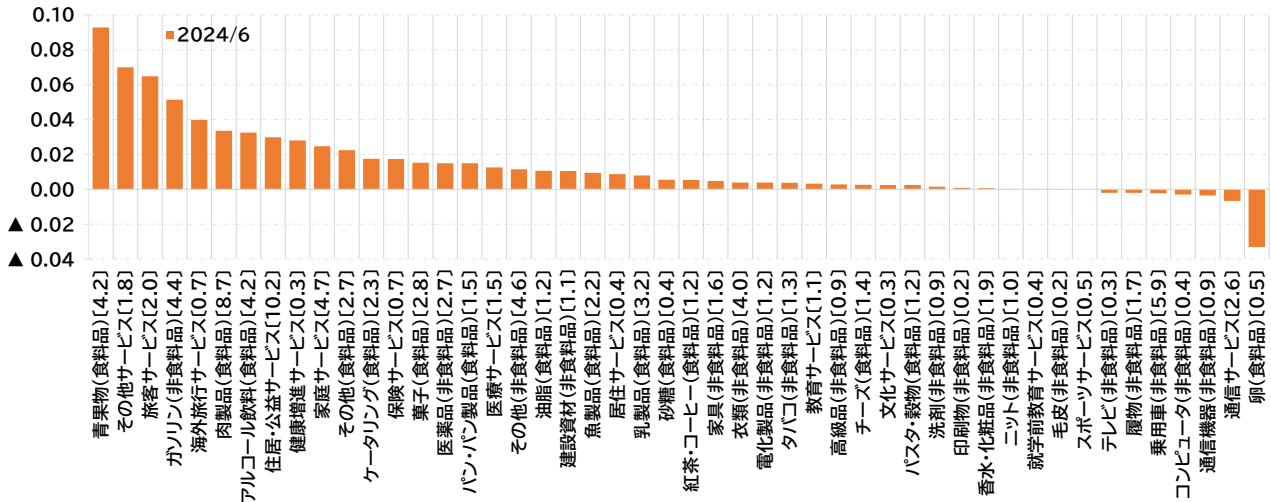


（注）各大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（図表 10）

（前月比寄与度、%）

ロシアの品目別インフレ率（前月比寄与度）



（注）各大分類の中のその他の項目は残差から計算
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。